

視 点

保育コホート研究の成果と情報通信技術を
活用した保育支援渡辺多恵子¹⁾, 田中 笑子²⁾, 富崎 悦子³⁾, 安梅 勅江²⁾

I. はじめに

少子化, 家族形態の多様化が進む現在, 孤立した子育てについて質的にも量的にも十分な支援策を講じることが課題となっている。保護者と子どもを日常的に支えつつ虐待予防や障害児支援を展開することは国の重要施策の一つであり, 平成20年に改正された新保育所保育指針は, 保育の質向上に向けた「根拠に基づく支援」, 「評価」, 「自己点検」の重要性を強調した^{1, 2)}。保育の質向上への大きな転機を迎えた保育実践の場では, 多くの保育専門職が, 「子どもの気になる行動」や「保護者のサイン」をどのように受け止め, 判断し, 実践し, 評価すべきか日々悩みながら活動している。一方, 共働き世帯は年々増加しており, 2013年の共働き世帯数は, 男性雇用者と無業の妻から成る世帯数の1.4倍以上である³⁾。保育所保育の社会的な要請は長期的に継続すると考えられる。

われわれは, 1996~2008年までの12年にわたるコホート研究により, 36,000人の保護者と子どもから詳細なデータを取得し, 子どもの健やかな成長に影響する要因を科学的に分析してきた。そして, 5つの支援ツール (①一般発達評価票, ②社会的スキル尺度, ③気になる子ども支援チェックリスト, ④育児環境評価票, ⑤保育環境評価票) を開発するとともに, その根拠を実践で活かす方法について整理した^{4, 5)}。しかし,

現状の課題を解決するためには, それらを「より活用しやすい形」, 「成果を視覚的にとらえやすい形」, 「柔軟性および汎用性の高い形」で提供すること, 継続的なコホート研究により着実な保育の質向上サイクルを展開することが求められる。2008年, 5つのツールと支援設計を情報通信技術の活用により提供する「WEBを活用した園児総合支援システム (以下, 本システム)」を開発し, 保育実践の場に導入した。

II. WEBを活用した園児総合支援システムの概要

本システムは, 保育所や幼稚園などに所属する0~6歳の子どもの情報を集積する。5つのツールの他, ホーム画面, 園児一覧画面, 個人基本情報 (性別, 生年月日, 入園年齢, 保育時間, 家族構成, 保護者の職業など), 評価レポート, 支援設計で構成されている。5つのツール, 評価レポート, 支援設計と, 園児一覧画面, 個人基本情報画面は, 相互にリンクし, クリック (またはタップ) 操作にて移動可能である (図1)。

5つのツールは, どこからでも入力を始めることができる。大きめの画面をタップしながら園児情報を入力すると, 結果を瞬時に集計し, グラフ化し, 視覚的に表示する (図2)。全国平均や標準値との比較ができ, 個々の園児の発達状況を客観的に確認 (図3) することができる。特別な配慮が必要な子どもには, アラート (注意喚起サイン) を示し, かかわりのヒントを表

Childcare Support Involving Utilizing a Comprehensive Childcare Record System Using Internet Documentary Information and Cohort Study Representing

Taeko WATANABE, Emiko TANAKA, Etsuko TOMISAKI, Tokie ANME

1) 日本保健医療大学保健医療学部

2) 筑波大学医学医療系

3) 上智大学総合人間科学部

別刷請求先: 渡辺多恵子 日本保健医療大学保健医療学部 〒340-0113 埼玉県幸手市幸手1961-2

Tel: 0480-40-4848 Fax: 0480-40-4860

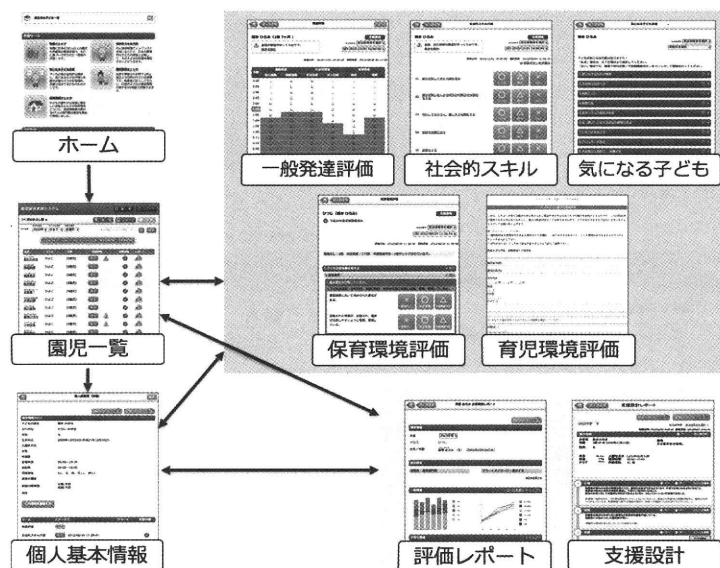


図1 WEBを活用した園児情報記録システムの全体像

図2 入力画面

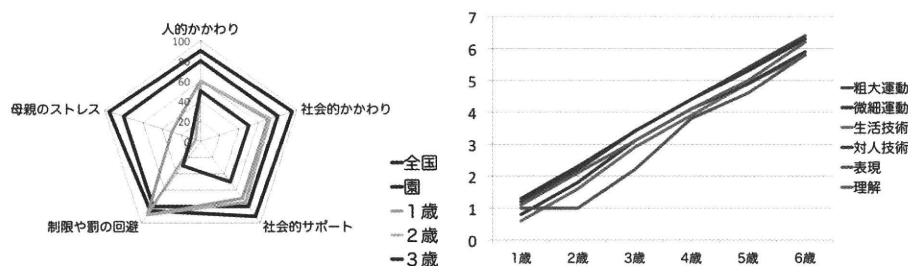


図3 入力結果の表示

ます。園の取り組みとして、絵本の貸し出しや、発達や興味に応じた冊を読むなど、親子でおだやかな楽しい時間を持てるよう配慮していきま
ム・デイリープログラム・日課)の中で本をどのように位置づけている
す。
続きを見る
歌を歌う機会が乏しいようです。
続きを読む
配偶者の育児協力が乏しいようです。
続きを見る

図4 注意喚起サインとかかわりのヒント

支援設計レポート

個人調査票

2012年度

随時レポート 定期レポート

担当保育者 担当保育者を選択

実施日時: 2012/06/07 14:02:50 最終更新: 2012/06/07 14:02:50

園児情報

お名前 年齢 性別 女

身長 48.1cm 体重 4.8kg カウブ 20.83

入園年月日: 2012年05月10日 保育時間: 09:00~15:00 同居家族: 父、母

備考 主な養育者は母親。

1 目標

① 教を受け入れ、適切な対応ができるようになり、子育てを楽しめるようになること。
 ② 教を理解し、子育てに前向きになること。
 ③ 適切な対応ができるようになり、コミュニケーションが活発になること。

配偶者に現状を伝え、できる援助をしてもらえるようになること。実母との未解決な問題が解決し、適度な依存ができるようになる。発達障害に関する理解が深まり、他者への援助にも目を向けるようになること。

2 課題

保護者は可し無視など否定的な態度で接している。
 保護者には怒ることしか選択肢が無い。
 保護者は現状を何とかしたいという気持ちが強い

3 背景

1.音に対する反応の異常
 大きな音に対して、音のする方を向いたり、体をビクッとさせたり、驚いたりするなどの反応を見せない

すべてを保存 保存

図5 支援設計レポート

※図2～5に示したデータは、すべてデモンストレーション用のダミーデータである。

示する(図4)。さらに、目標、課題、背景、影響要因、支援方法、根拠、で構成される「支援設計レポート作成機能」を搭載(図5)し、根拠に基づく日々の保育を支える。

本システムは、保育専門職や保護者が、さまざまな端末から入力する園児情報を継続的に集積し、保育専門職、保護者、研究者にメリットをもたらす。保育専門職は、子どもの発達状況の特徴を視覚的に確認し、配慮を要する子どもや保護者を早期に把握し、根拠に基づく支援を行うことが可能となる。保護者に対しては、わかりやすく子どもの状態を示すことができ、保護者と保育専門職が子どもに関する情報を共有することができる。

本システムは、連結可能、匿名化された園児情報を

継続的に集積する。これによりわれわれ研究者は、子どもの発達に関する経時的な情報記録を活用し、園児の発達に関するさらなる根拠を生み出し、本システムにフィードバックすることが可能となる。

Ⅲ. WEBを活用した園児総合支援システム活用の成果

本システムに集積されたデータを分析した結果、育児環境が1年後の社会能力の発達に影響することや、2年後の粗大運動発達、生活技術発達、言語発達などに影響することが示されている。また、1歳時の育児環境が、5歳時の社会能力の発達に影響することが示されている。本システムに集積されたデータが、子どもの健やかな発達に影響する育児環境要因や、子どもの発達に適した育児環境を少しずつ明らかにしている

表 配慮を要する保護者の1年後の育児環境改善への効果

	リスク者の 人数	改善 人数 (%)	変化なし 人数 (%)
制限や罰の回避			
子どもの誤りへの対応（たたく）	722	443（ 61.4）	279（ 38.6）
子どもを毎日たたく	241	166（ 68.9）	75（ 31.1）
人的かかわり			
一緒に遊ぶ	201	134（ 66.7）	67（ 33.3）
一緒に本を読む	1,531	817（ 53.4）	714（ 46.6）
一緒に歌を歌う	448	274（ 61.2）	174（ 38.8）
配偶者の育児協力	870	447（ 51.4）	423（ 48.6）
家族で食事をする	272	221（ 81.3）	51（ 18.7）
社会的かかわり			
一緒に買物に行く	283	224（ 79.2）	59（ 20.8）
公園などに連れていく	2,748	1,279（ 46.5）	1,469（ 53.5）
知人との交流の機会	4,586	1,335（ 29.1）	3,251（ 70.9）
社会的サポート			
育児支援者の有無	2,307	945（ 41.0）	1,362（ 59.0）
育児相談者の有無	460	292（ 63.5）	168（ 36.5）
配偶者と子どもの話をする	715	415（ 58.0）	300（ 42.0）

といえよう。

本システムは、アセスメントに必要な園児情報の収集と理解、アセスメント、目標の明確化、支援、評価、継続的な情報活用、関連・因果関係の検証というPDCAサイクル展開に寄与する機能を内包することが確認されている^{6,7)}。本システムを活用している認可保育園に通園している子どもの保護者11,640人のうち、配慮を要するかかわりをしていた保護者の1年後の育児環境の変化を調査した結果、制限や罰の回避領域において好ましくないかかわりをしていた養育者の、「子どもの誤りへの対応 (たたく)」の61.4%、「子どもを毎日たたく」の68.9%に、かかわりの改善がみられた。人的かかわりが乏しかった養育者では、「一緒に遊ぶ」の66.7%、「一緒に本を読む」の53.4%、「一緒に歌を歌う」の61.2%、「配偶者の育児協力」の51.4%、「家族で食事をする」の81.3%に、かかわりの改善がみられた。社会的かかわりが乏しかった養育者では、「一緒に買い物に行く」の79.2%、「公園などに連れて行く」の46.5%、「知人との交流の機会」の29.1%に、かかわりの改善がみられた。社会的サポートが乏しかった養育者では、「育児支援者の有無」の41.0%、「育児相談者の有無」の63.5%、「配偶者 (またはそれに代わる人) と子どもの話をする」の58.0%に、改善がみられた(表)。保育専門職が、本システムを適切に活用しながら子どもと養育者に真摯に向き合い支援することにより、子

どもの健やかな発達に影響する育児環境の改善につながった可能性が考えられる。

保育コホート研究の成果と情報通信技術の融合により、①根拠に基づく保育実践を継続的に展開し子どもと保護者の健やかな育ちを支え促す、②特段の配慮を要する子どもを早期に把握し他機関と連携した質の高い支援を継続的に実施し評価する、③体系化された情報の集積による継続的かつ着実な保育の質向上サイクル展開の歯車が動き始めた。本システムの継続的な活用により、さらに強固な根拠の創出と、子どもと保護者の健やかな育ちを促していくことが期待される。

IV. おわりに

現在、本保育コホート研究は17年目、本システム活用は5年目を迎えた。本システムを導入した保育所、幼稚園は91園、登録された園児数は44,000人を超えた。本システムは、保育実践の場では、経験的根拠の立証や職員間での情報共有のみならず、子どもの状況を保護者と共有することに活用されている。インクルーシブ保育の中では、「子どもを理解する」ために活用されている。保育専門職は、本システムを日常的に保育の中で活用し、子どもの健やかな育ちを支えている。今後は、国際比較への発展、妊娠期から思春期までの継続したシステムとしての発展などが期待される。

本システムの開発は、社会技術研究開発センター「研究開発成果実装支援プログラム」の助成を受けました。また、本システム開発全般にわたりご協力をいただきました全国夜間保育園連盟の天久 薫会長、枝本信一郎副会長、保育パワーアップ研究会の皆さま、本システムを活用してくださっている全国の保育所、幼稚園、認定子ども園の皆さまに、心より御礼を申し上げます。

文 献

- 1) 厚生労働省. 厚生労働省告示第百四十一号, 保育所保育指針. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf> (平成27年2月16日アクセス)
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. 保育所保育指針解説書. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf> (平成27年2月16日アクセス)
- 3) 内閣府男女共同参画局. 男女共同参画白書 平成26年度版, 第2章女性の活躍と経済社会の活性化. 第1節就業をめぐる状況. http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h26/zentai/pdf/h26_genjo1.pdf (平成27年2月16日アクセス)
- 4) 安梅勅江. 保育パワーアップ講座. 東京: 日本小児医事出版社, 2007.
- 5) 安梅勅江. 保育パワーアップ講座活用編. 東京: 日本小児医事出版社, 2008.
- 6) 渡辺多恵子, 田中笑子, 富崎悦子, 望月由妃子, 徳竹健太郎, 安梅勅江. クラウドを活用した園児への総合支援システムの開発—ヘルスリテラシーの視点から—. 小児保健研究 2012; 71 (5): 780-786.
- 7) Watanabe T, Anme T, et al. Development of a Scale for Assessing the Childcare Information Utilization Skills of Childcare Professionals (SACIUS). International Journal of Psychology and Behavioral Sciences 2014; 4 (1): 21-29.

資 料

- ・ 保育パワーアップ研究会ホームページ
<http://childnet.me>
- ・ 子育て子育てエンパワメントに向けた発達コホート研究ホームページ
<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/ecd/>